

## 【令和2年度 学力向上計画】

### 1 学校の状況

#### (1) 新型コロナウイルス感染防止による臨時休校に伴う学力の保障

- ① 令和2年3月初めから5月末までの約3か月、新型コロナウイルス感染防止のため、また4月の緊急事態宣言を受け、学校は臨時休校を行った。その間、登校日が数日あったが子供たちはほとんどの時間を家庭で過ごした。学校から家庭学習用の課題を出したり、オンライン授業の動画を配信したりして、学習の手立てを行ってきた、しかし、家庭で個別に学習を進めるには個人差が大きく、学校再開後の学習の保障が重要である。

#### (2) 授業の状況

- ① 学習の構え
  - ア 始業、終業の挨拶や授業に向けた意識、授業規律は概ね身に付いている。
  - イ 学習道具や宿題を忘れる児童は各学級1割程度おり、固定化している。
  - ウ 授業中の学習姿勢を保持することが難しい児童が多い。
- ② 学習への意識
  - ア 学習しようとする意欲は高く、課題に対して真面目に取り組もうとする児童が多い。
  - イ 話を聴こうとする姿勢は見られるが持続しきれず、指示や説明を理解しきれない児童が多い。
  - ウ 自分の考えを、根拠をもとに表現すること(話すこと、書くことなど)を苦手とする児童が多い。
- ③ 学力、学習内容の定着
  - ア 二極化傾向にあり、基礎的・基本的な学習内容の習熟が課題の児童が7～8割程度いる。
  - イ 学習習慣が確立していない児童が4割程度おり、学習の自立とともに家庭学習の定着に向けた粘り強い指導が必要である。
  - ウ 理解した学習内容を日常的に活用することが少ないため、学習内容が定着しきれない傾向がある。

### 2 学力向上に向けた対策

#### (1) 新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校を踏まえた学力向上

- ① 長期休業短縮や学校行事の中止により、標準時数を確保する。
- ② 各学年で学ぶべき単元内容は確実に履修できるようにする。
- ③ 年間指導計画を見直し、教科によっては単元を入れ替えるなどの対応を行う。
- ④ 授業の効率化を図り、「思考力」「判断力」「表現力」の時間を確保する。
- ⑤ 黒板を写す活動を少なくし、ワークシート等に置き換える。
- ⑥ 授業の終わりに次時につながる家庭学習の課題を出す。
- ⑦ ワークシートを投映して子供の考えを共有し、時間短縮を実現する。
- ⑧ タブレットPCを活用した双方向のオンライン授業を実践する。

#### (2) 家庭学習や放課後学習との連動

- ① 家庭学習マニュアルを作成し、学習の定着を図る。
- ② 授業の終わりに出した課題を家庭学習で取り組み、次の時間に家庭で取り組んだ考えを発表し合うなど、授業と家庭学習を連動させる。
- ③ 学習内容の習熟は家庭学習で行う。
- ④ 「学びのテーマパーク」を充実させ、ノート見開き2ページを活用した自主学習に取り組む。

### (3) 家庭との連携による学習習慣の育成

- ① 家庭学習を10分×学年で行うよう啓発するとともに、家庭学習の提出率100%を目指し指導の徹底を図る。
- ② 学年共通の統一宿題プリント等を毎日課題にして宿題をする習慣を定着させる。また、学級の状態に応じて課題を用意し学習の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ③ 家庭学習の提出状況の低い児童には、家庭との協力を図るとともに個別の指導や補習を行い、学習補完を徹底する。

### (4) 共に学ぶ集団としての学習規律の育成

- ① 学習に対する3つの構え「身構え」「心構え」「物構え」(学習姿勢、話の聞き方、座り方、学習道具)に関する指導を徹底する。
- ② 授業の始まりと終わりの時間を整え、授業はチャイムで開始し、チャイムで終了する。
- ③ 授業の始まりと終わりの挨拶の指導を大切にす。

### (5) 基礎的・基本的な学習内容の習得と活用力の育成

- ① 「学びのテーマパーク」で自主学習の推進を図るとともに、朝学習と週3日(1日15分程度)の放課後パワーアップタイムにおいて繰り返し学習の指導を行い、学習内容の定着を図る。
- ② 東京ベーシックドリルを活用して自主学習を進める学習習慣の確立を図り、第6学年において、診断テスト100%達成を目指す。
- ③ 日常の漢字指導を充実させ、第3・5学年において漢字検定を実施し、目標級合格率80%以上を目指す。
- ④ 習熟度別少人数算数指導を2年生から5年生で実施し、低学年からの基礎基本の徹底を図る。

### (6) 主体的・対話的で深い学びにより思考力・判断力・表現力を育成

- ① めあてとまとめが明確な授業展開を大切にす。
- ② 校内研究の推進を通して、児童を主体とした授業改善を図る。その際、学びを深めるために、各教科の「見方・考え方」を軸とした授業改善の工夫をする。
- ② 問題解決型学習やめあて学習などの児童主体の授業展開において、児童が十分に考えたり、討議したりする時間を設定する。
- ③ 教師の指示・説明・発問を明確にした授業改善に努める。
- ④ タブレットPCを活用し、リモートでの対話やグループの話し合い活動等の充実を図る。

### (7) 読書活動の充実と読書習慣の育成

- ① 教職員やボランティア、図書委員会等による読み聞かせを全学年で行う。
- ② 週1回の朝読書、学期1回の読書週間を設定して読書活動を推進する。
- ③ 全学年、読書記録を作成して読書に対する関心を高める。

### (8) 学習意欲の向上

- ① ユニバーサルデザインの考えを基に、1単位時間の見通しをもたせたり学習環境を整えたりする。
- ② ICTやeラーニングを活用して個に応じた学習により意欲を高め、家庭学習との連携を図って進んで学習する習慣を身に付けさせる。
- ③ 学習サポーターや教育支援補助員を活用して個に応じた指導の充実を図る。また、支援方法等について、担任と毎朝打合わせを行う。

### (9) 授業改善に向けた取組

- ① 週ごとの指導計画に授業改善推進プランに示された指導の工夫や児童の変容、成果について明記することで、指導の重点化を図る。
- ② 前期の学校評価の結果を基に、学校全体の取り組み状況や成果、課題を共有し、二学期以降の改善と数値目標の達成を目指す。